

## 『犬山市サイクルタウン構想』 (地域融合化に関する調査研究のまとめより)

技術研究所の技術的資産を利用して、周辺地域との融合化を図り、新しい役割を担うための調査研究を、シンクタンクの(株)富士総合研究所へ委託し、当研究所と共同で行った一年間の調査研究結果を「犬山市サイクルタウン構想」としてまとめた。

犬山市は、国宝犬山城をシンボルに明治村その他多くの観光施設を有しており、国際観光モデル地区に指定され歴史、文化、自然環境にも恵まれ、年間700万人をこえる観光客が訪れている。人口は約7万人で東半域は丘陵地となっており静かな街である。

市の総合計画の将来像では「学術と文化を育む緑ゆたかな国際交流のまち」とし、その実現構想の中には、健康で豊かな都市空間のまちづくりをめざすとされ、自転車を活用したまちづくり事業が関連すると考えられる。

ここにおいて、技術研究所では、同市のまちづくりの支援として、自転車を活用した市の将来像の実現、及び市の課題解決を目標としたまちづくりに「犬山市サイクルタウン構想」を提案した。この構想では、次の3つの柱を基本理念としている。

- ① 豊かな市民生活に寄与する自転車活用方策の実現
- ② 国際観光都市としての取り組みとなる自転車活用方策の実現
- ③ 先進的な取り組みをPRする情報発信事業の展開

これらの理念実現のためには、次のような事業を実施する必要がある。

- ◆道路・交通体系の整備
- ◆交通安全対策の充実
- ◆地域福祉・高齢者福祉の充実
- ◆スポーツ・レクリエーションの活性化
- ◆東部丘陵の保全と開発
- ◆観光の振興
- ◆自転車技術の普及
- ◆犬山市専用自転車の開発

また、以上の事業実現のためには、犬山市民のコンセンサスを得る作業が必要とされ、その他幾つかの課題も解決しなければならない。即ち、

- 市民意識の把握
- 先進事例の参照
- 推進体制の検討
- 広報事業の選考実施
- 事業主体の明確化
- 技術研究所の推進体制の整備

以上の課題や役割分担を明確化して、主導的事業と双方の連帯による共同事業が考えられる。また、財政的な支援の問題も含み、関連機関との密接に連携して効果的に活用することが望ましいとしている。

『犬山市サイクルタウン構想』の基本コンセプト、基本理念

